

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|-----------------|------------|------------|
| 事業所番号 | 3170100659 | | |
| 法人名 | 社会福祉法人 地域でくらす会 | | |
| 事業所名 | グループホームいくのさん家 | | |
| 所在地 | 鳥取市湖山町西2丁目237-2 | | |
| 自己評価作成日 | 平成24年8月8日 | 評価結果市町村受理日 | 平成24年9月10日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|--|
| 基本情報リンク先 | www.wam.go.jp |
|----------|--|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|-----------------|--|--|
| 評価機関名 | いなば社会福祉評価サービス | | |
| 所在地 | 鳥取市湖山町東2丁目164番地 | | |
| 訪問調査日 | 平成24年8月10日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

全国小規模多機能型居宅介護事業所連絡会が開発したライフサポートワーク様式(いわゆるケアマネジメント様式)を平成22年より取り入れて、地域密着型としてのグループホームに合ったケアプランを作成している。そのケアプランは、本人や家族、スタッフのそれぞれの想いを1枚の紙に記入していき、その想いに沿ってケアして行くことが出来るようにしている。また里帰りやお墓参り、外食などを積極的に行い、家族や地域との関わりを大切にしている。また職員自らが考えた「グループホームのルール」を作成し、当事業所の理念をさらに具体化し実践出来るものとして日々のケアの振り返りを行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

湖山池のほとりの恵まれた自然環境の中にあり、「いくのさん家」の理念と合わせてホーム独自のルールを職員で考え作成し、実践に努められている。介護計画書はライフサポートワーク様式を活用され、利用者の住んでいた場所や馴染みの人との関係継続に努められ、地域密着型としてのグループホームに合ったプランを作成されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 「いくのさん家基本理念」は入社時や全体会で共有の場を設けている。また、グループホーム独自のルールを職員で考え作成し、実践出来るように努力している。 | 基本理念は玄関及び室内に掲示され、職員間で共有認識を持たれている。また、具体的なグループホーム独自のルールを管理者と職員で話し合い作成され、実践に努められている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 町内に畑を借り、持ち主の方に野菜作りを利用者と共に指導していただいたり、収穫祭や納涼祭に参加していただいたりしている。また、避難訓練をお手伝い頂いたり、また地区の新年会にも参加し交流を図っている。 | 町内の畑を借りられ、利用者と共に指導を受けながら野菜作りをされた。収穫祭や納涼祭には地域の人も参加され行われた。町内会には加入されており、避難訓練での支援を受けられたり、新年会へ参加され、交流を図られている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 運営推進会議等で地域代表の委員の方をはじめ皆さんに様々な認知症の高齢者の事例を報告させて頂いている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 運営推進会議にはスライドを使って普段のご様子や新規ご利用者の紹介を行い、また利用実績の報告や、ライフサポートプランを発表し、出席者の方々に率直な感想や意見を頂いている。 | 運営推進会議では、近況報告、行事報告、利用者の状況などが報告され、意見交換が行われている。利用者のライフサポートプランの実施状況を報告され、出席者からの意見や感想を貰われている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 上記運営推進会議には市役所高齢社会課担当者や地域包括支援センターからも参加を頂いており、協力関係を築いている。 | 市町村担当者や地域包括支援センターの担当者には、運営推進会議のメンバーになって貰われている。利用者の成年後見人制度などを利用の際に、支援や助言を受けられ、協力関係を築かれている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 職員会議において、研修会をもち話し合いを行っており、どういう行為が身体拘束に当たるのかの共通理解を図っている。鍵はかけず、外へ出られる利用者には付き添い歩行等のケアに取り組んでいる。 | 身体拘束をしないケアについて研修会を持たれ、あらゆる状況について話し合い、共通理解をされている。日中、玄関は施錠されていないが、夜間は防犯上施錠されている。また、夜間徘徊がある利用者については見守りを実施されている。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 上記と同様に職員会議で研修として学ぶ機会を持っている。また事業所内での虐待を見過ごすことのないように努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 所内研修で成年後見制度を学ぶ機会を持っている。実際に、後見人・保佐人を利用されている方もあり、必要性を痛感している。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約の際は丁寧な説明を心がけ、ご利用者やご家族の立場に立って理解していただけるよう心がけている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 家族会や2ヶ月毎に運営推進会議を開いており、意見や要望を聞く機会を設けている。年に2回開催している家族会では、ほぼ毎回全家族がご出席くださり、活発な意見交換の場となっている。 | 家族会を年2回実施され、家族同士の意見交換や交流の場を設けられている。年間行事の中に、外出やドライブ、食事会、公民館訪問を計画され、家族も参加されている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 職員会議や朝礼・夕礼において職員の意見や提案を聞き、サービス運営に反映させている。 | 職員会議や日々のミーティング時に職員意見を聞く機会を持たれ、運営に反映されている。会議の記録は申し送りノート等で職員全体で把握されている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 常日頃から管理者や職員と接する時間は多く、それぞれの働きの把握を行い、適宜職場環境や条件整備に務めている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 3階層に分けた職員研修の取り組みに加え、月に1回ある職員会議において研修会を行い、知識と技術の習得に努めている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 「こやま地域ケアネットワーク」を立ち上げ、湖山地域のニーズを探り、それに対して行動することを、連携を図りながら取り組んでいるところである。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | ご本人の訴えをしっかり聴き、困っていることを把握し解決していくことで信頼関係を築いていくように努めている。また、以前の生活歴や好みのものなどの情報を集め、細やかな対応が出来るよう心がけている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | ご家族の要望や意見を十分にお聞きしてご本人とご家族が不安の無いように信頼関係作りに努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 本人さんご家族と話をし、今までの生活も大切にしながら、馴染みの店や地域の方との交流も継続していけるよう支援している。例えば、行きつけの美容院やスーパーに行く等。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | ご利用者と職員と一緒に洗濯を干したり、配膳やお茶を一緒に入れたり、食器を拭いていただいたりと協力し合って毎日を送っている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 手紙や電話でご家族との連絡を取れるようにしたり、家族会やライフサポートプランの実行時にはご家族に協力していただき共に支える関係を築いている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | ライフサポートプランで、ご利用者の住んでおられた家や近所の方や知り合いの方、よく行っていたお店など馴染みの人や場所を大切にできるように努めている。 | ライフサポートプランを活用され、利用者の趣味を活かして自宅での個展を実施されたり、民話が好きな利用者には実際にその場所へ訪問同行されている。買い物や美容室、公民館活動への参加同行、墓参り等の支援も行われている。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | ご利用者同士の関係を考え、食事の時やレクの時などの席順に配慮している。また関係の悪いご利用者同士は職員が間に入り、孤立せずお互いを支えられるような関係性を作れるように努力している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 入院された方には病院にお見舞いに伺ったりして、適宜助言を行っている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 日常会話の中でご本人の興味や願いをお聴きして、それをスタッフが共有し実現の方向へと話し合いライフサポートプランへ反映している。 | 利用者との日々の話の中で、本人の趣味や思いを把握されている。スタッフ間で話し合いの場を持たれ、ライフサポートプランに反映されている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | ご家族や地域の方からの情報を得たり、日常生活の様々な場面でご利用者の生活歴を探り、また実際に住んでおられた家に行ったりして把握に努めている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 朝のバイタルチェック時、その日の体調を把握している。皆で過ごす時間、一人で過ごす時間、とその日その時に応じ行っている。週に一度趣味の時間を設け、書道やコーラス、手芸等を行っている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | ライフサポートプランを活用し、ご本人やご家族の想いを十分に反映させ、出来ることから実践に移している。 | ライフサポートプランを活用しながら、本人のいま出来る能力を引き出せるよう、一人ひとりに合わせたプランを作成され実践されている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 個別記録は日誌の支援経過に記入し、問題をフィードバックさせ、実践や効果を共有できるように工夫をし、介護計画の見直しに役立てている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | ライフサポートプランを作成し、本人さんご家族の希望を重視し対応している。例えばふるさと訪問、本人さんの好きな民話の地を訪れる、自宅の活用等。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|---------------------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 同地区内にある公民館での茶道教室に通ったり、図書室の本を借りたりと地域資源を活用している。また、公民館の掃除に参加している。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 事業所の協力医の往診を定期的に受けている。内科以外の対応時には、希望を聞きその医療機関にスタッフが同行し受診していただいている。 | 定期的に協力医の往診を受けられている。また、一人ひとりの状態に合わせて医療機関への受診に同行され、結果はその都度報告されている。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 介護職と看護師は密接に連絡をとりあいながら日々業務に当たっている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院中は時々面会に行き看護師に様子を聞いたり、医療機関の地域連携室等と連絡を取り合いながら情報交換に努めている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | ご家族や主治医を交えカンファレンスを開き、方針を共有し、後悔のない看取りができるように努めている。 | 重度化した場合や終末期のあり方について、事業所で出来る事を十分に説明されるとともに、主治医を交え、家族、職員とカンファレンスを開かれ方針を共有されている。また、家族と密に連絡を取られながらチームで支援されている。 | 終末期での取り組み方を文書化され、職員の心のケアに繋がりたい。 |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 鳥取市消防団湖山分団の指導の下、心肺蘇生法や応急手当の指導を受け、実践力を身につけている。また、緊急連絡網で連絡が取れるよう日頃から目を通すようにしている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 鳥取市消防団湖山分団や地域の方の協力を得て、訓練を行っている。またより実地に即した訓練を模索している。 | 年2回防災訓練を実施されている。鳥取市湖山分団、地域の人々、消防署の協力を得ながら大がかりな訓練をされ、協力体制をより深められた。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | トイレへの声かけなどは他利用者にはわからないよう配慮している。常に目上の方であることを頭に置き声かけをしている。 | 本人の人格や意見を尊重しながら、一人ひとりに合わせた言葉かけや対応をされている。また、利用者同士のトラブルや口論は、なるべく口出しをせず見守られ、さりげなく話題を変えるなど気遣いをされている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | ご利用者の考えが引き出せるように話し方を工夫し、自己決定できるように努めている。また、普段から話しやすい雰囲気作り心がけている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 希望をお聞きするのは難しいけれど、会話の中で本人さんの意見をみつけ実行出来るよう努めている。“ドライブに行きたい”“買物をしたい等。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | ご利用者とスタッフが一緒に買い物に行き、本人に好みの衣類を選んでいただき購入している。身だしなみに無頓着になっている方にも、さりげなく支援を行っている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 食事の前にはテーブル拭きやお茶を入れていただき、夕食準備では会話しながら料理を皿に盛っていただいている。また食後は食器を拭いてもらっている。 | 食事中はテレビをつけないようにされ、会話を楽しみながら本人のペースに合わせてゆっくりと摂られている。一人ひとりの能力に応じて、夕食の準備や後片付けを手伝って貰われている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 月に一度体重測定をして主食副食の量を調整している。また水分も一人ひとりの状態に応じて摂取していただいている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 週に一度歯科衛生士に口腔内をみていただき、スタッフは指導を受けている。毎食前はうがいをしてもらい、食後は口腔ケアをして清潔保持に努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 一人ひとりの排泄リズムに合わせて、時間を見て日中は必ずトイレに案内し、失敗のないように支援を行っている。 | 一人ひとりの能力や排泄パターンを把握し、記録の中からトイレ案内の目安を立てられ誘導されるなど、失敗のないよう支援に努められている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 一人ひとりに合わせて便秘予防のための服薬やオリゴ糖を摂取していただいている。また日常的に歩行等の運動を行っている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 希望をお聞きするのは難しい方が多いが、その日の体調や気分を考慮しながら入浴をしていただいている。また、希望のある方には夕方の入浴も実施できるように準備している。 | 入浴は毎日可能である。個々の希望に沿った入浴支援を心がけられ、その日の体調や気分を考慮しながら支援をされている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 体調に合わせて休息をしていただいている。夜間浅眠気味の方もおられるが、出来るだけ安眠に繋がるように体を動かしたり日中を活動的に過ごしていただけるように努力をしている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 常に最新の処方箋を一人ひとりの薬と一緒に管理しており、職員がすぐに確認出来るようにしている。また日々の体調に注意し、変化があれば主治医や看護師、薬剤師に報告・相談している。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 家事の手伝いなどその方に合わせて、出来ることは一緒に行うようにしている。また、ライフサポートプランを活用し、張り合いや喜びのある日々を過ごせるようにしている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | ご利用者の希望やライフサポートプランに則り、外出の計画(なじみの美容院や故郷訪問等)や支援を日常的に行っている。 | ライフサポートプランや利用者の希望に合わせて、外出支援が日常的に行われている。また、近くで栽培している畑へ野菜の収穫や散歩に出掛けるなど、外出の機会を日常的に持たれている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 一人ひとりの能力を考慮し、お金を所持できる方にはご本人の希望に応じて使っていたるように支援している。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | ご本人の希望により携帯電話で話をしていたり、ご家族の協力を仰ぎ葉書でやり取り出来るように支援している。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 共有の空間の清潔や整理整頓に心がけ、居間等に花を飾ったり観葉植物を置き、ラジオや音楽を流したり、室温の調節、窓からの日差し等にも配慮しているが、整理できていない部分もあり、課題を残している。 | 共有空間の清潔や整理整頓に心がけられている。また、室温の調節、風通しや窓からの日差しの具合等に配慮され、居心地の良い空間を作られている。 | 共用空間のトイレ等の手すりが利用者にとって使いやすいものになるよう期待する。 |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 共有空間では、気の合う方同士が近くで過ごせるように配慮し、お独りになりたい方には廊下で日光浴等を自由にしていたり、読書も楽しんでいただいている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 居室は、ご家族の希望やご本人の好みの物を取り入れ、使い慣れたものを置き居心地良く過ごしていただいている。転倒の危険性が高い方は居間で居心地よく過ごしていただけるように配慮している。 | 居室はたんすやテーブル以外にも、それぞれの利用者の好みや馴染みの物など、生活スタイルに合わせて用意されている。また、写真や絵画、使い慣れた日用品が置かれ利用者の居心地良さに配慮されている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 洗濯物を干せるように居間に接したデッキがあり、台所も身近にあり家事にも積極的に参加できるように工夫してある。また安全を考え、各スペースでの職員の見守り支援を徹底している。 | | |